

オンライン

住宅医 スクール

The projects of Architectural Pathologists 2022-01

住宅医の仕事紹介 2022-01

量から質へ。既存住宅に関する知識や技術が求められる時代です。
既存住宅の調査・診断から改修設計・施工・維持管理等ができる「住宅医」を育成するため、
今年も住宅医スクール2022(第13期)を開催しています。

「住宅医の仕事紹介」は、全国で活躍している住宅医の仕事を発表し合う場です。
2022年第1回は、岐阜県、東京都の3名の住宅医による仕事をご紹介します。

6/10 (金) 17:00~19:00

住宅医の仕事紹介 2022-01
オンライン開催 (ZOOM利用)



滝川 良子
スピカ建築工房
【東京都】

『住宅医調査を通して建物の維持方向性を決定 ～築125年伝統構法の家+築22年在来工法の家』

建物の存続を迷っていた住まい手が、住宅医の調査結果を通して活用と改修を決意された、2つの事例を紹介させていただきます。
江戸時代末期に建築された茅葺きの住まいを減築し、カフェ+住宅として再生した事例と、60代を過ぎ終の住処として改修を行った、平成の住まいの事例となります。



中島 あゆみ
あゆみ設計工房
【岐阜県】

『住み継ぐ家の変遷 ～旧徳山の家・2世帯住宅という選択』

岐阜県旧徳山村から豊橋市へ移築した住宅。
その後25年間暮らした家を2012年にフルリノベーション。2020年、息子家族が「同敷地内に新築を建てたい」という話から始まった今回の計画。
法的な理由から新築が建てられず、母屋の2階をリフォームして2世帯住宅にすることを提案した事例をご紹介します。



酒井 哲
TownFactory
【東京都】

『山村文化を引き継いだ木造校舎を 簡易宿泊施設にリノベーション』

「建物の価値を継承したい」、「増築で敷地からはみ出している」、「土砂災害警戒区域内」、「予算が…」等、現場では住宅医講座では学んでいなかった様々な難題に遭遇します。
調査から建物の状況を多角的に把握し、要望の実現に必要な最小限の改修に絞り込むことで、事業を進めた事例をご紹介します。

対象者 どなたでもご参加いただけます (※ZOOMを用いたオンライン形式でご参加頂きます)

定員 100名程度

参加費 無料

参加申込 一般社団法人住宅医協会ホームページ <申込フォーム> よりお申込みください。

申込締切 2022年6月8日(水)

主催 一般社団法人住宅医協会



【申込URL】<https://sapi.or.jp/skillup20220610/>